



アフリカ、中央アジアで拡大が予想されるイスラム金融

開発経済調査部 主任研究員 糠谷 英輝

イスラム金融は、最近、特に中東湾岸諸国で顕著に拡大を見せている。主にリテール部門、開発プロジェクトに関連した資金調達部門でイスラム金融化が進展している。好調な経済成長が続き、これをもとにした開発プロジェクトが相次ぎ、イスラム教国である中東湾岸諸国では、可能ならばイスラム金融を利用したいという要望が強いからである。

こうした中東湾岸諸国と同様のベースが、今後の成長が期待されるアフリカ諸国、中央アジア諸国にも存在する。

アフリカ諸国にはおよそ4億4,300万人のイスラム教徒が存在し、イスラム教徒の比率は48%程度に上る。アフリカは世界の原油の10%、天然ガスの8%を埋蔵している他、南アフリカやコンゴ民主共和国、ボツアナをはじめ、レアメタルの宝庫でもある。2007年の原油生産量の世界順位を見てみると、ナイジェリアが12位、アルジェリアが14位、リビアが15位、アンゴラが17位に位置している。因みに中東湾岸諸国のカターールは20位である。これら主要原油生産国のイスラム人口比率を見ると、ナイジェリア97%、アルジェリア99%、リビア97%とほとんどがイスラム教徒である。紛争は未だに多いものの、原油価格の急騰に伴い、アフリカ諸国は好調な経済成長を続けている。アフリカ諸国の経済成長と原油価格の相関は、サウジアラビアをも上回るとの指摘があるほど、経済は資源に依存している。

こうしたアフリカ諸国には中東湾岸諸国からの投資が増加するとともに、イスラム金融拡大の兆候も生まれてきている。ムーディーズ社のレポート("Islamic Finance Explores New Horizons in Africa", March 2008)は、2007年末のアフリカのイスラム金融資産残高は180億ドル、市場シェアは8%に満たないが、潜在的には2,350億ドルの市場規模があるものと推計され、特に政府によるイスラム債券(スクーク)の発行が期待されると述べている。

アフリカ諸国の中では、産油国スーダンが金融のイスラム化を行っており、国内の金融は全てイスラム金融となっている。2007年には同国のセメント会社がアフリカではじめてのスクークを発行した。

ケニアでは2007年、当局がイスラム銀行2行に許可を与えたが、両行ともに中東湾岸諸国の出資によるものである(Gulf African Bank、First Community Bank)。またBarclaysが同国ではじめてのイスラム銀行預金の開設を行うなど、一般銀行によるイスラム金融サービスの提供も開始されている。

南アフリカでは、バーレーンのAlbaraka Banking Groupが大手5行に入っており、同国でのイスラム金融を主導してきたが、その他の大手行であるABSA、First National Bank、Nedbank、Standard Bankもリテール部門、資産運用部門でイスラム金融に参入している。

さらに地域最大の産油国であるナイジェリアも国民の需要が強いことから、イスラム金融の導入検討を開始している。

次に、中央アジア諸国であるが、カザフスタン、アゼルバイジャン、トルクメニスタンなどが産油国であるほか、天然ガスの埋蔵量では中央アジア諸国が世界シェアのお

よそ 30%を占め、さらにウランなどのその他鉱物資源の埋蔵も多い。また中央アジア諸国は急速な経済成長を記録している。IMF のデータによれば、2007 年の実質 GDP 成長率（見込み）は、アゼルバイジャン 23.4%、カザフスタン 8.5%、トルクメニスタン 11.6%、キルギス共和国 8.2%、タジキスタン 7.8%、ウズベキスタン 9.5%に及んでいる。また同地域のイスラム人口比率を見ると、アゼルバイジャン 93.4%、カザフスタン 47%、キルギス共和国 75%、タジキスタン 90%、トルクメニスタン 89%、ウズベキスタン 88%と、カザフスタンを除けば、大半がイスラム教徒である。

その中央アジア諸国でもイスラム金融が芽生え始めている。2007 年には、イスラム開発銀行とキルギス共和国との間で、同国にイスラム金融を導入するパイロット・プロジェクトが締結され、EkoBank が同国ではじめてのイスラム金融サービスの提供を始めた。バキエフ・キルギス共和国大統領は、同国の首都であるビシュケクを地域のイスラム金融センターとする意向を示した。

地域イスラム金融センターにはカザフスタンも手を挙げている。カザフスタンでは既に数行がイスラム金融サービスを提供しているが、そのメニューはムラバハと呼ばれる売買形態のものに過ぎない。また地場銀行の TuranAlem はイスラム・シンジケート・ローンでアラブ諸国、英国、マレーシアから資金調達を行っている。カザフスタン政府はイスラム金融に関する法整備を進めており、2008 年中にも法案が議会を通過する予定である。

このように今後の成長が期待されるアフリカ、中央アジアでもイスラム金融が拡大する気配がうかがわれる。これを後押ししているのはオイルマネーで潤う中東湾岸諸国であり、同諸国のイスラム銀行である。加えて中央アジアで見られるようにイスラム開発銀行を通じた支援も期待されよう。今後も資源高が予想されるなかでは、予想以上に早いスピードで、両地域でイスラム金融が拡大していくことも考えられよう。

以上

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2008 Institute for International Monetary Affairs (財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話：03-3245-6934（代）ファックス：03-3231-5422

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>